



# 菊川市文化振興計画

平成24年度～平成33年度  
(2012年～2021年)

平成24年6月

静岡県 菊川市

## ～はじめに～



本市は、一級河川「菊川」を中心に、温暖な気候や豊かな自然に恵まれ、過ごしやすい環境のもと、多くの人々が定住し、独自の文化が育まれました。近年は外国の人の移住も増えて、多文化共生を目指す中で新しい文化も生まれつつあります。

そこで、本市では、「菊川市文化振興計画」を策定し、平成24年度から平成33年度までの10年間を計画期間として、これまで培われた菊川市の文化の振興を図ります。

この振興計画は、「みどり次世代～人と緑・産業が未来を育むまち～」を市の将来像として定めた、第1次菊川市総合計画の七つの基本方針の一つ「豊かなこころを育むまち」を実現するための基本計画となります。また、菊川市の文化の範囲を芸術文化に限定せず、幅広く捉えた計画であり、菊川市の文化を継続・発展させていくための指針として策定したものです。

文化は人の心に感動を与え、豊かな人間性や創造力を育み、地域に活力を生み出します。本計画の基本理念である「人づくり」「地域づくり」を進めていくことで、新たな文化を育み、「いつまでも住み続けたい」「このまちに住んでみたい」と思えるまちづくりを行っていきたいと考えています。

それには、行政と、市民・学校・関係団体等の連携、協力が大きく求められ、本計画がそのための道しるべとなることを願っています。

最後に本計画の策定にあたり、長期間ご審議いただきました「菊川市文化振興計画策定委員会」の方々、貴重なご意見をいただきました市民の皆様に、心からお礼を申し上げますとともに、今後のご指導、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

【菊川市長】 太田 順一

---

# 目次

---

<b>第1章 計画策定にあたり</b> .....	<b>1</b>
1. 菊川市文化振興計画の趣旨 .....	1
2. 第1次菊川市総合計画 後期基本計画 .....	2
<b>第2章 基本理念と基本方針</b> .....	<b>4</b>
1. 菊川市の文化の定義 .....	4
2. 基本理念 .....	5
3. 基本方針 .....	5
<b>第3章 菊川市の文化環境の現状</b> .....	<b>6</b>
1. 菊川市の文化を構成するもの .....	6
2. 市民の芸術・文化活動 .....	18
3. 市内の地域コミュニティ .....	22
4. 文化施設 .....	23
<b>第4章 基本施策</b> .....	<b>30</b>
1. 豊かな自然と美しい景観の保全 .....	31
2. 歴史・文化遺産の継承と活用 .....	37
3. 豊かな生活文化の継承 .....	41
4. 芸術文化・スポーツ活動の振興 .....	46
5. 人づくり・地域づくり .....	53
<b>第5章 重点的な取り組み</b> .....	<b>58</b>
1. 「情報発信力」の向上 .....	58
2. 「菊川アーカイブ」づくり .....	59
<b>第6章 事業評価</b> .....	<b>60</b>
1. 評価指標 .....	60
2. 評価体制 .....	62
3. 菊川市文化振興計画策定体制 .....	63

---



菊川茶のイメージキャラクター「ちやこちゃん」  
イラスト：小山ゆう

# 第1章 計画策定にあたり

## 1. 菊川市文化振興計画の趣旨

### 1-(1) 計画策定の背景

#### 1) 文化芸術振興基本法の制定

平成13年12月7日に公布された「文化芸術振興基本法」（以下「基本法」という。）は、芸術・文化が人間に多くの恩恵をもたらすことから、芸術・文化活動を行う者・団体の自主的な活動の促進のため、芸術・文化の振興に関する施策の総合的な推進を図ることを目的としています。

この基本法に基づき、静岡県では平成18年10月18日に「静岡県文化振興基本条例」を公布、施行しました。この条例では、文化振興に関する基本的な計画を定めることが明記されています。そのため、平成20年3月に「静岡県文化振興基本計画」を、平成23年3月に「第2期ふじのくに文化振興基本計画」を策定しています。

#### 2) 菊川市における文化振興

国や県の動きを受けて、菊川市（以下、「本市」という。）でも、社会が大きく変動しているこの時期において、市民に受け継がれてきた独自の「菊川市の文化」を、将来にわたり伝えていくこと、またその文化を発展させていくことの重要性を認識するに至り、文化振興計画を定めることとなりました。

そこで、平成19年度に菊川市教育委員会内において、三部の構成による文化振興分科会を設置しました。まず、「菊川市の文化（第一部）」をより深く知るために「菊川市らしさとは何か（第二部）」という問題点から議論し、平成23年度に「菊川市文化振興計画（第三部）」（以下、「本計画」という。）を策定するに至りました。

### 1-(2) 計画の位置付け

本計画は、法律第4条の「地方公共団体の責務」における“地域の特性に応じた施策の策定”に基づくものです。また、「第1次菊川市総合計画 後期基本計画」（以下、「総合計画」という。）を上位計画とし、「静岡県文化振興基本条例」および「第2期ふじのくに文化振興基本計画」との整合性を図りながら、本市文化振興のための全体的な施策のあり方を整理し、今後の文化振興の指針とするものです。

本計画では、文化振興の目標や方針、基本的な施策を体系的に整理するとともに、文化をけん引する重点施策を定め、本市の文化の担い手である市民や芸術家の活動及び文化的な生活を支える環境整備の方向性と方策を示します。

### 1-(3) 計画の期間

計画期間は、平成24年度から平成33年度までの10年間とし、施策については、計画の進捗や社会経済状況の変化を踏まえ、5年程度で見直しを行います。

## 2. 第1次菊川市総合計画 後期基本計画

本市の総合計画における、文化振興に関する方針について説明します。

総合計画では、本市の将来像を「みどり 次世代 ～人と緑・産業が未来を育むまち～」とし、そのなかで下記のような「文化活動の振興」をうたっています。

### □ 「文化活動の振興」に関連する基本方針等

基本方針 施策の柱	主要な施策	主要な事業
	豊かなこころを育むまち《学校教育・社会教育》	
学校教育の充実	家庭地域との連携のもと、社会の変化に対応できる学校づくり	外国人児童生徒教育支援の推進 安心・安全なおいしい給食作りの実施 食育及び地産地消の推進 幼稚園、小中学校施設整備事業 など
	教育環境・施設等の整備と支援	
	学校給食の充実	
次世代を担う人づくりの推進	豊かな感性と社会性を育む活動の推進	学校支援地域本部事業 ボランティア活動の推進 家庭教育学級の開設 など
	地域での子どもの支援	
	家庭教育の推進	
生涯学習*の充実	生涯学習活動の推進	各種講座の開設 自主講座の開設支援 生涯学習だよりの発行 図書資料の整備・充実 図書館ボランティアの育成・支援 図書館運営の検討
	読書活動の推進	
	図書館の適正な管理運営	
歴史・文化遺産の継承と活用	文化財の保護・継承	指定文化財の管理・保護事業 文化財の活用 <small>くろだけ</small> 黒田家代官屋敷資料館運営事業 観光事業との連携 埋蔵文化財発掘調査事業
	文化財の周知・活用	
	埋蔵文化財の保護・発掘	
文化活動の振興	市民文化・芸術活動の推進	菊川市文化祭、菊川市写生大会、菊川美術展、書き初め展等の開催 文化協会との連携 文化会館アエル指定管理者との連携
	文化・芸術活動拠点の充実	
スポーツ活動の振興	一人1スポーツの奨励	総合型地域スポーツクラブの支援 体育指導委員活動 市スポーツ大会の開催 指導者の養成 体育施設の運営管理 スポーツ振興基本計画の策定
	地域に根ざしたスポーツグループ・クラブの育成	
	地域に根ざした生涯スポーツ環境整備	
	スポーツ施設の適正な運営・管理	

生涯学習\*とは、一人ひとりが自己の充実と自らの生活の向上を目指し、自己にもっとも適した手段・方法で、生涯にわたって自発的に行う学習活動を意味します。

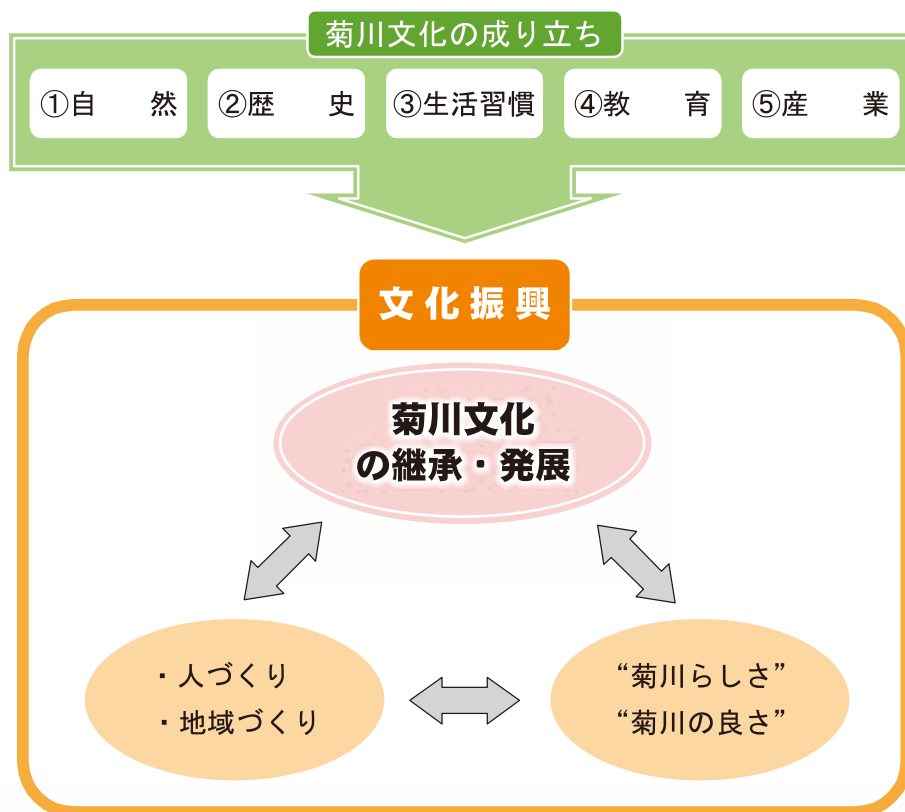
基本方針		主要な施策	主要な事業
施策の柱			
笑顔がうまれるまち《コミュニティ》			
地域コミュニティの推進	地区コミュニティの推進	コミュニティ協議会への支援	
外国人との共生の地域づくりの推進と交流活動の活性化	多文化共生の推進	地域主催の外国人交流事業への支援 地域間交流事業の推進 など	
	交流活動の活性化		
若者参加の地域づくりの推進	各種団体の情報交換・話し合いの機会の提供	青年団活動の支援 中学・高校生の生徒会活動と地域づくり活動の検討	
	子どもの社会参画の支援	小学校における総合学習での地域活動の導入 各種団体の交流も含めた意見交換会の開催	
輝くみどりのまち《環境》			
自然環境の保全	自然公園の維持管理	地元団体による環境保全活動、イベントの支援 河川愛護事業の推進 など	
	水辺環境の保全と整備		
躍進する産業のまち《産業》			
商業振興と既存商店街の活性化	既存商店街の活性化	商工会との連携による消費拡大事業などの支援	
観光資源の発掘とネットワークの形成	市内観光資源の発掘	新たな観光資源の発掘と観光ルートの検討	
菊川茶の振興	茶文化継承	お茶の淹れ方教室等による茶文化の普及 手揉み保存会への支援	

## 第2章 基本理念と基本方針

### 1. 菊川市の文化の定義

本市の文化振興を考えるにあたり、本市の文化「菊川文化」の基礎的な要件を「自然」「歴史」「生活習慣」「教育」「産業」の5つに分類しました。そして、それらが互いに有機的に関わりを持ちながら「菊川文化」が形成されているものと定義します。

□ 基本要件図



菊川市は、過ごしやすい「**自然**」環境や地形により、昔から人がこの地に住み、「**歴史**」が芽生えました。先人たちによって受け継がれてきた歴史には、風俗や宗教などの独自の「**生活習慣**」の形成をみることができます。これは、地域や家庭・学校などの「**教育**」に大きな影響を与え、菊川市民の持つ人柄や社会の地域性の形成にも大きく関わってきました。

そして、先人たちによって農業を中心とした「**産業**」が営まれ、稲作や茶業が発達し、「**菊川文化**」は形成されてきました。

現在、鉄道や車社会の発達によって産業は工業・商業中心となり、働く場も、地元だけでなく遠方の都市へと広がりつつあります。このような社会の変化は、菊川文化にも大きな影響を及ぼしています。

**菊川文化の継承・発展**のためには、“**菊川の良さ**” “**菊川らしさ**” の再発見と、**人づくり・地域づくり**に深く関わり合う、新たな文化振興策の策定が必要と考えます。



## 2. 基本理念

本計画の対象は、芸術文化のみならず、文化を生み出す母体としての「自然」や、「歴史」「生活習慣」「教育」「産業」を含みます。

そのうえで、本市独自の文化を見直し、継承していく「人づくり」「地域づくり」を最重要課題とします。そして、本市に根差す文化の振興を図り、新たな市の文化構築を目指すことを基本理念とします。

## 3. 基本方針

- 市民自らが考え行動する、地域づくり・まちづくりへの参画を図っていきます。
- 市民・行政・学校・関連団体等が連携・協力し、人材を育てていきます。
- 様々な文化の情報や場を提供し、市民の誰もが気軽に、楽しく参加できるオープンな活動機会を増やします。
- 本市の文化資源の再発見・再評価を行い、自分達が住む市・地域への誇りを育み文化への関心・知識を高めます。

## 第3章 菊川市の文化環境の現状

「菊川市の文化」を構成する『自然』『歴史』『生活習慣』『教育』『産業』について、現状を整理します。

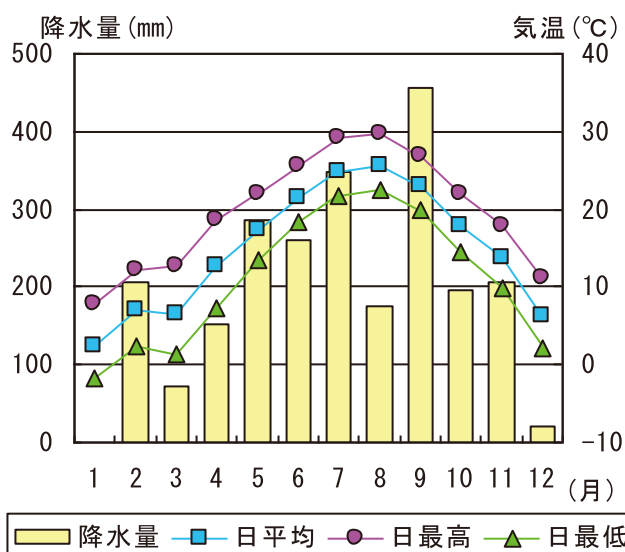
### 1. 菊川市の文化を構成するもの

#### 1-(1) 自然

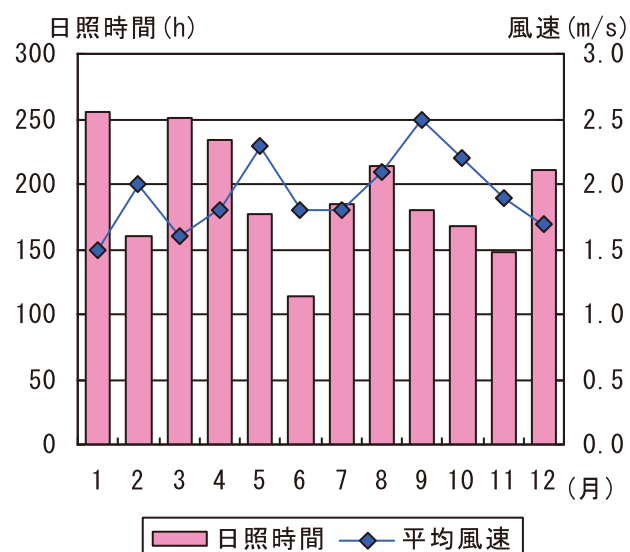
##### 1) 気候

温暖な気候と空っ風のまち

- 黒潮流れる太平洋に近く、一年を通じて温暖な気候で、全国のなかでも晴天率が高く、日照時間も長くなっています。
- 冬の降雪はほとんど見られませんが、「遠州の空っ風」と呼ばれる乾燥した北西からの季節風が吹きます。



□ 2011年 菊川市 気温と降水量



□ 2011年 菊川市 日照時間と風速

資料：気象庁ホームページ (<http://www.jma.go.jp/jma/menu/report.html>)

## 2) 地理

丘陵に囲まれ、菊川流域に平野が広がるまち

- 本市は、日本のほぼ中央、静岡県西部に位置し、掛川市、牧之原市、御前崎市、島田市と隣接しています。
- 東の牧之原台地、西の小笠山丘陵、南の河東山、北の火剣山ひつるぎさんから続くなだらかな丘陵に囲まれ、北から南へ流れる河川「菊川」流域にひらけたまちとなっています。またその地形は北部は赤石山地の南すそにあたる丘陵地帯で第三紀層が、東部は牧之原台地（洪積台地）洪積層（更新世）、「菊川」の本支流沿いは沖積平野で沖積層（ほぼ完新世）、川沿いの小高い所にある平地は河成段丘（河岸段丘）で更新世の段丘礫層となっています。
- かつて、日常生活での隣村への道路の多くは丘陵越えや隧道によって通じており、秋葉街道や横須賀往還等が東海道と結びつく重要な街道でした。
- 明治期の東海道線開通により「堀之内駅（現菊川駅）」が開駅し、また昭和 40 年代に東名高速道路の開通に伴う「菊川 I C」が設置されて、交通インフラが拡大し、現在も大きな役割を果たしています。
- 平成 17 年の旧菊川町と旧小笠町の合併により、幹線道路の整備が進んでいます。

### □ 東名高速道路「菊川 I C」周辺



### 3) 河川「菊川」と里山景観

#### 里山や川の恵みが残るまち

- 本市は、河川「菊川」とともに歴史を刻んできました。
- 「菊川」流域は、幾度にもわたる洪水被害の歴史を持ち、そのたびに護岸工事も進められてきました。
- その反面、「菊川」は流域面積が狭いうえに山林面積も少ないため、水不足も発生しやすく、静岡県内有数の干ばつ地域でした。その対策として、江戸時代以来、多くのため池や用水が人々の努力や苦勞により造られてきました。
- 昭和 43 年の国営大井川用水の完成により、水事情は大幅に改善されました。そのため、市内の河川等は、小魚などの宝庫としてだけでなく、稲作中心の生活に農業用水として重要でしたが、その役割は変化しつつあります。
- 大井川用水が整備される以前には、加茂井水や嶺田用水などが利用されていました。加茂井水は文禄 3 年（1594）、13 年の歳月を経て、三浦刑部とその二人の遺児により完成され、井成神社としてその徳が称えられています。また、嶺田用水は慶長 12 年（1607）、16 年の歳月を経て、中条右近太夫の直訴により完成されましたが、直訴の罪は免れず処刑されました。その後、中条を祀るために井之宮神社が建立されました。
- 本市を含む菊川中流部から下流部にかけては、丘陵地に細かく谷が入り込み、その谷を利用してため池がつくられることが多く、現在も多数が残されています。
- 丘陵地は自然林が残り、貴重な小動物や鳥、昆虫などのすみかとなっています。また、その特徴を活かした里山や、棚田として利用されていましたが、近代以降は茶園等として造成が続けられてきました。
- 平野部にはまとまりのある水田が見られますが、都市的土地利用が進み、農用地の減少とともにスプロール化と混住化\*が顕著となっています。
- 水田は、その洪水調節機能が地域の防災に大きく寄与しているとともに、近隣住民にとってもっとも身近な緑地空間です。
- 棚田を含む水田の周囲には、人間と共生する自然があり、いまだ農村の里山風景が残っています。この里山風景が、穏やかな市民の気質を育んできました。

※農地の「スプロール化」とは、まとまった農地が虫食い状態に宅地などに転用されていくことで、これらが進むことで優良な農地や自然環境を守ることができなくなります。また、「混住化」とは、農村集落内において、農家・非農家が混在していくことです。



ため池（七曲池）

## 1-(2) 歴史

### 「菊川」とともに歴史を刻んだまち

- 「菊川」流域周辺には、弥生時代の遺跡が広がっており、古墳時代には中央の大和政権と結びつく古墳が多く出現します。
- 古代から中世にかけては豪族、貴族、大寺社の荘園として発達しました。
- 鎌倉時代に入ると、高田大屋敷の内田氏や横地城<sup>よこちじょう</sup>の横地氏<sup>よこち</sup>など、御家人がこの地域を支配しました。
- 戦国時代は、斯波氏<sup>しば</sup>、今川氏、武田氏、徳川氏の順に支配していました。
- 江戸時代は幕府による統一的支配の藩は置かれず、多数の領主に分割統治されたため、「菊川」の河川改修等の大規模農地整備や都市化が進むことはありませんでした。また南部は、旗本領を黒田家<sup>くろだけ</sup>が代官として治めました。
- 明治に入ってから町の町村合併、東海道線開通や交通機関の整備、牧之原等の茶園開墾が、近代以降の菊川市街の形成に大きな影響を与えました。
- 昭和 29・30 年の町村合併による「菊川町」と「小笠町」の誕生が、現在の菊川市の前身です。
- 市政は、平成 17 年 1 月 17 日に旧菊川町と旧小笠町の合併により、施行されました。



舟久保古墳



横地城跡



東海道新幹線

## 1-(3) 生活習慣

### 1) 風土

#### 昔ながらの気質が残るまち

- 温暖な気候で周囲を丘陵に囲まれた「菊川」の河川流域には、多くの遺跡や古墳が存在し、古くから人の住みやすい土地でした。その一方、冬の「遠州の空っ風」を防ぐために、独特の「榎囲い住宅※<sup>1</sup>」を生み出しました。
- 平野部での稲作、丘陵地での茶生産※<sup>2</sup>という農業を中心とした共同体（ため池等の管理）による生活から、「のんびり」「穏やか」「でしゃばらない」、反面「引っ込み思案」「競争心が乏しい」などと評される気質が生まれ、県内の他市町と比較すると、本市は「同居家族が多い」、「独居老人が少ない」などの特徴が見られるように、農業中心の家族形態の名残があると考えられます。
- 明治の東海道線、昭和の東海道新幹線、東名高速道路の開通など交通インフラの整備拡充により、茶業関連地元企業の発展や県内外企業の誘致などと相まって、生活環境や生活形態が大きく変化してきました。
- 世代を追うごとに、農業生活から企業労働生活へと移行する率が高く、家族形態も変化し、コミュニティの在り方にも影響を及ぼしています。

#### ■ 榎囲いの住宅※<sup>1</sup>

遠州の空っ風を防ぐための昔からの知恵である「榎囲いの住宅」は、地域の代表的景観でしたが、最近では、市民の生垣に対する意識や関心も低くなってきています。「榎囲い」には、景観的な側面だけでなく、気温調整機能や二酸化炭素の吸収など、環境に優しい側面もあり、保存していきたいものです。



榎囲いのある家



丘陵地の茶畑

#### ■ 丘陵地での茶生産※<sup>2</sup>

茶畑は、地形や周りの環境によって様々な表情を見せ、それぞれの美しさがあります。茶の柔らかな萌黄色の新緑はとても美しく、機械化されたとはいえ茶摘みなどの農作業も独自の農村風景です。

刈り取られた茶の木が、しばらく見ぬ間に緑の葉に覆われる様は驚きでもあります。身近にあり過ぎてついつい見過ごしてしまいがちな「絵になる風景」・「癒される風景」・「感動できる風景」として、市民や市外からの来訪者に広めていきたいものです。

## 2) 伝統行事等

### 新たなコミュニティの中に伝統が残るまち

- かつての農耕、農作業を中心とした生活のなかでは、各地域に寺社があり、今も「三沢の三度栗」「片葉の葦」「善勝寺のきつね」等の民俗的・民話的伝承は、新たなコミュニティの中に息づいています。
- 「潮海寺祇園祭」「虚空蔵山の節分祭」「平尾八幡宮例大祭」「段平尾のさんげさんげ」等の古来から伝わる祭事、祭礼が恒例行事として続けられています。
- 以前はどの家庭にも家風があり、年長者を中心に代々受け継がれ、子ども達は寺社等の行事に参加することで、地域の社会的な習慣を学びました。
- 現在は、新たな世代によるコミュニティの形成と共に、秋の祭典、ふるさと夏まつりおがさ、夜店市、地区センター祭り、各種スポーツ大会、イベントなど新しい行事も、数多く生まれています。



潮海寺祇園祭

- 3年に1度、7月下旬に3日間行われ、「潮海寺祇園お囃子（市無形民俗文化財）」に合わせて、屋台が仁王像がある石段を下がり、また上がります。



虚空蔵山の節分祭

- 年男と年女が山頂で祈祷を受けた後、赤鬼と青鬼を先頭にしながら列を組んで石段を下り、交通安全や無病息災を祈願します。下山後は、境内で豆まきが行われます。



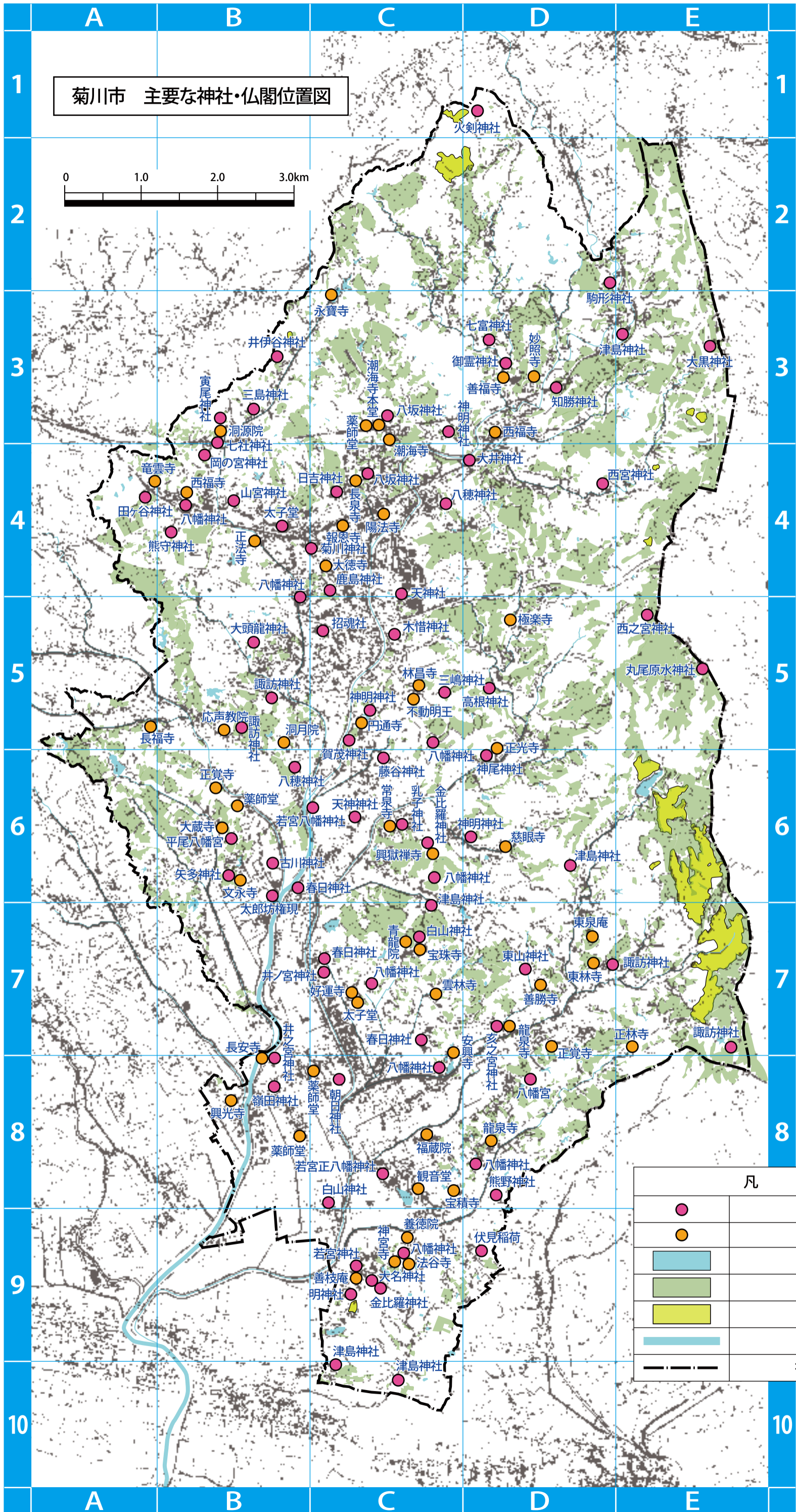
平尾八幡宮例大祭

- 毎年10月に例大祭が行われます。特に5年に1度の大祭では、御輿渡御（神輿が進むこと。）が催行されます。



段平尾のさんげさんげ

- 内田地区の段平尾で行われている盆行事で、富士山信仰の一つです。豊作と地域の安全の願いを込めて「さあんげさんげ…」と全員で唱えます。



菊川市 主要な神社・仏閣位置図

0 1.0 2.0 3.0km



凡	例
●	神社
●	仏閣
■	ため池
■	茶畑
■	保安林
—	河川
---	行政区境界

資料：静岡県神社庁ホームページ  
静岡県仏教会寺院名簿  
菊川市社会教育課資料



## 1-(4) 教育

### 教育への熱意と次の世代への期待を育むまち

- 江戸末期から広がりを見せた遠州国学や報徳思想は、本市周辺の教育風土の礎になったと考えられ、それらを基にした教育が行われ、多くの人材を輩出しています。
- 猿渡には「双松学舎」、高橋には「南山裁縫女学校」、堀之内に「堀之内裁縫女学校」、横地に「梨園義塾」が生まれ、遠方からも人々が集い、学びました。
- 「県立小笠農学校（現県立小笠高等学校）」は、本市の発展に寄与した多くの人材を輩出しています。
- 常葉学園菊川中学校、常葉学園菊川高等学校、菊川南陵高等学校の進出は、私学による新たな人材育成と輩出が期待されます。
- 社会教育面においては、文化会館、体育館、公民館、地区センター等の施設の拡充や活動が進んでいます。
- 本市は、県内図書館の中でも「蔵書数の多い図書館」として県内データ「市町村の指標」で上位にランクされるなど、日常生活と教育の結びつきが高いと言えます。
- 産官学が連携する小笠茶文化協議会※により、「茶と文化」講座が開催されています。

#### ■ 小笠茶文化協議会※

「小笠茶文化協議会」は、地域住民に茶と文化の理解・啓発を図ることなどを目的として「茶と文化」講座を開催している組織です。

県立小笠高等学校では、数学や英語といった「普通教科」のほかに、農業・工業・商業・家庭・福祉・国際理解などに関する「専門科目」を開設しています。その「専門科目」のなかで、地域特産の茶に関する授業も行われており、学校が「小笠茶文化協議会」の事務局にもなっています。

#### □ 平成 23 年度 「茶と文化」講座

講座内容	会場
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 開講式</li> <li>● お茶の審査に挑戦</li> <li>● 美味しいお茶の淹れ方</li> </ul>	JA 遠州夢咲茶業振興センター サエリア
<ul style="list-style-type: none"> <li>● お茶の郷見学・昼食</li> <li>● 講演「茶業界の現状」</li> </ul>	お茶の郷博物館
<ul style="list-style-type: none"> <li>● こんなにある！「茶色」の世界</li> <li>● ハンカチを染めてみよう</li> </ul>	小笠高等学校 食品棟
<ul style="list-style-type: none"> <li>● 煎茶を使ったお菓子づくり</li> </ul>	小笠高等学校 食品棟
<ul style="list-style-type: none"> <li>● お茶の手揉み</li> <li>● 閉講式</li> </ul>	JA 遠州夢咲茶業振興センター サエリア

資料：平成 23 年度 菊川市生涯学習だより（菊川教育委員会）

※本市内における文化活動や文化団体等については、P18 以降に記載しています。

## 1-(5) 産業

### 農業中心から新たな産業への移行が起きつつあるまち

- 地理的、気候的条件に恵まれたこの地においては、早くから稲作を中心とした農業を産業基盤とし、農閑期には「きりぼし<sup>\*1</sup>」づくりも盛んでした。
- また、明治以後は、牧之原台地の茶園開拓が行われるとともに東海道線、堀之内駅（現 菊川駅）の開業（明治 22 年）などにより、茶産業の振興と茶業関連機械の製造を中心に「小笠茶産地」として発展するようになりました。その結果、菊川駅を中心に商工業市街地が発展し、旧浜岡町（現御前崎市）池新田に繋がる「オット<sup>\*2</sup>」と呼ばれる鉄道も敷かれ、駅前はもとより沿線が発展するきっかけとなったのです。
- 以後、高度成長期のなか、昭和 44 年の東名高速道路菊川インターチェンジの開設を機に交通インフラが整備拡充され、産業は製造業を主とした企業経済へとシフトしました。地元企業も成長を続け、整備した 4 か所の工業団地を中心に 100 社以上の企業が立地しています。
- さらには、静岡～浜松間の通勤圏におけるベッドタウンとしての役割も増加、農業から工業へと世代間の移行も生まれました。
- 一方では、モータリゼーション（車社会化。日常生活での自動車の一般化。）の発達や消費生活スタイルの変容と共に、地元中心街であった駅前商店街や企業は大きな変化を余儀なくされ、南北幹線道路の整備とともに主要経済地域の塗り替えが進んでいます。
- 今後は、富士山静岡空港、御前崎港の整備、新東名高速道路の開通等も含めた国内外の経済変動の波により、本市の産業・経済も大きく影響されていくものと思われます。

#### ■ きりぼし<sup>\*1</sup>（干し芋）について

本市周辺で「きりぼし」というと干し芋のことを指します。干し芋は、今でこそ茨城県が国内随一の生産地ですが、江戸時代の御前崎地方で発祥し、本市でも多く生産されていました。

かつては農家の冬場の収入源として、「遠州の空っ風」を利用して作られ、軽便鉄道で各地に輸送されていました。大切な保存食として盛んに作られていた「きりぼし」は、一時は法事の引き出物にも入っていましたが、現在は生産が減少しています。



## ■ オット※2について

明治22年(1889)に東海道線開通と同時に堀之内駅(現 菊川駅)が開業し、明治25年(1892)には堀之内と池新田(現御前崎市)の間に里道(県道)が整備されました。県道には馬車(通称「ガタ馬車」)が走るようになりました。

明治32年(1899)に松下幸作、高力貢、丸尾鎌三郎が發起人となり、堀之内駅前に本社を置いた「城東馬車鉄道株式会社」(軌道の上の車両を馬力で引く)が開業し、堀之内駅前から南山まで運行しました(社長 高力)。

大正6年(1917)になり、社名を「御前崎軌道株式会社」としました。社名については、御前崎まで路線を延長する意図を示したことと、当時の軌道条例に則って改名したものです(社長 松下)。

その後、大正10年(1921)に「堀之内軌道運輸株式会社」となって、橋梁・トンネルの整備をすすめ、馬力に替わる蒸気機関車(「浜松軌道」…現「遠鉄」から購入)、次いでディーゼル機関車(オット)を動力にした営業になりました。そして、大正13年(1924)には池新田(現「御前崎市早苗町」)まで延長(全長14.8km)されたのです。

社長は、初代松下幸作、2代目山下伊太郎でした。

昭和に入り、バスの力が大きくなり、堀之内軌道の経営は苦しくなりました。途中で電化の計画もされましたが断念し、昭和10年(1935)にその歴史に幕をおろしました。

堀之内軌道は、日本で最初にディーゼル機関車を導入し、人だけではなく「きりぼし」など農産物の輸送にも利用されており、秋の彼岸に行われる桜ヶ池(御前崎市)の池宮神社大祭りの時が一番忙しい時期だったそうです。

現在、市内でその名残をとどめるものは、佐栗谷トンネル跡のみとなりました。



資料：菊川町三十年の歩み(菊川町)  
菊川町史・別編 菊川地域鉄道史(菊川町)  
郷土史研究 No6(菊川町郷土史研究会)

### 軌道馬車

大正10年(1921) 土橋  
資料：大庭正八氏提供



### オット

大正12年(1924)頃 南山学校前  
資料：菊川町50周年記念誌「みのり」

## □ 本市の工業の礎

明治 20 年代には、日本の茶は輸出の花形でしたが、製茶はほとんど手揉みに頼っていました。そのようななか、本市の工業は、茶業関連機械の製造を中心に発展してきました。

- 松下幸作（旧小笠町生まれ）は、村内有志と共に共同販売組合南山社を組織し、製茶の集荷販売を行いました。そして、製茶粗揉機<sup>そじゅう</sup>を発明・特許取得した高林謙三（現埼玉県入間市出身）を堀之内に招き、製茶粗揉機の販売権を得ました。明治 32 年、全国初の製茶機製造工場となる松下工場（堀之内）を設立し、高林式製茶機製造販売に取り組んだのです。
- 農鍛冶であった内田三平（旧菊川町生まれ）は、明治 36 年「内田刃物工業」（西方）を創業しています。アメリカ産の高価な鋼を使用し、酸素溶接を取り入れた刃物を製造して高い名声を得たのです。大正 2 年には「内田式茶摘鋏<sup>ちやつみばさみ</sup>」を開発し、茶業の規模拡大に大きな貢献を果たしました。
- さらに、内田刃物工業に入所していた落合信平<sup>のぶへい</sup>が、大正 12 年に茶摘鋏の製造販売を行うため「落合刃物工業」（潮海寺<sup>ちようかいじ</sup>）を創業します。昭和 31 年にカッター式の新案特許を取得し、これに改良を加えた「落合式茶摘機」は、全国にその名を知られるようになりました。現在では、茶摘機並びに茶園管理機の総合メーカーとして全国的に有名です。
- 大正 5 年には、落合藤八<sup>とうはち</sup>が旧六郷村本所<sup>ほんじよ</sup>に製茶用火炉の製造を目的として旭鋳物工場<sup>あさひのもの</sup>を創業しました。これが「旭可鍛鉄<sup>あさひかたんてつ</sup>」の始まりです。落合藤八は、無煙火炉を発明して「旭無煙火炉」「富士旭火炉」として製造販売し、成功を収めました。大正期の茶の増産はめざましく、火炉の普及時代で需要が極めて高かったのです。

現在の本市は、東名高速道路菊川 I C と J R 東海道本線菊川駅を有すること、富士山静岡空港まで車で約 20 分圏内にあること、J R 東海道新幹線掛川駅や御前崎港の利用が可能であることなど、企業立地に恵まれた地域となっています。

資料：菊川市ホームページ、菊川町三十年の歩み、小笠茶業史

## □ 茶の産業文化

幕末から明治のはじめ、アメリカを主な輸出先として製茶業は急速に発達し、茶価も高騰しました。それ以前から「菊川」流域では茶栽培が行われていましたが、特に明治維新以後の茶価の高騰につれて、茶園や製茶額も増加しました。牧之原台地の平坦面で、明治時代の士族授産事業をはじめとした広大な未利用地の開墾事業が行われるようになると、より一層茶業が発展することとなったのです。

これは、茶の海外輸出に貢献した三橋四郎次<sup>みつはししろうじ</sup>、手揉み製茶技術者として全国的に知られた漢人恵助<sup>かんどえすけ</sup>、生葉流通に力を注いで小笠茶の市場価値を高めた落合茂三郎<sup>もさぶろう</sup>、牧之原台地で丸尾原と呼ばれている一帯を開拓するなど、茶の発展に大きな功績を残した丸尾文六<sup>まるおぶんろく</sup>など、本市の茶の産業文化に貢献した、多くの偉人を誕生させました。また、茶栽培と関連して、製茶機の製造が盛んに行われており、全国の製茶機の約80%を製造しています。

深蒸し茶<sup>※</sup>は、本市が発祥の地です。昭和30年代に市内の茶生産者が研究に取り組み、現在のような濃い緑色の深蒸し茶が開発されたと言われています。当時、菊川市を含めた牧之原台地では、長い日照時間の影響で茶葉が厚く、渋みと苦みのあるお茶が生産され、主に輸出用でした。しかし、昭和30年代に輸出が落ち込み、国内で通用するよう渋い茶をいかにおいしい茶にするか、試行錯誤の末にたどり着いたのが深蒸し茶<sup>※</sup>でした。

### ■ 深蒸し茶<sup>※</sup>

荒茶を製造する工程の最初の段階で生葉を蒸気で蒸しますが、深蒸し茶は普通煎茶の数倍の時間をかけて蒸したり、大量の蒸気をあてたりしてより深く蒸します。菊川産の茶葉は、葉肉が厚いため深蒸し茶に適しています。

深く蒸すことで、渋みのもととなる成分が抑えられ、まろやかな味わいに仕上がります。やや粉が多くなりがちですが、この特徴も菊川の深蒸し茶ならではの上品な味と、濃緑色を生む大切な要素なのです。

お茶には、発ガン抑制作用や血中コレステロール低下作用のあるカテキン類、覚醒作用のあるカフェイン、抗酸化作用や風邪の予防にもなるビタミンC、抗ガン作用のあるβ-カロチン等、体のためになる成分が多く含まれています。

資料：菊川町史、菊川市ホームページ、菊川市茶業協会ホームページ、中部地方の古地理に関する調査報告書『天竜川・菊川 川の流れと歴史のあゆみ』平成21年3月 国土地理院



手揉み

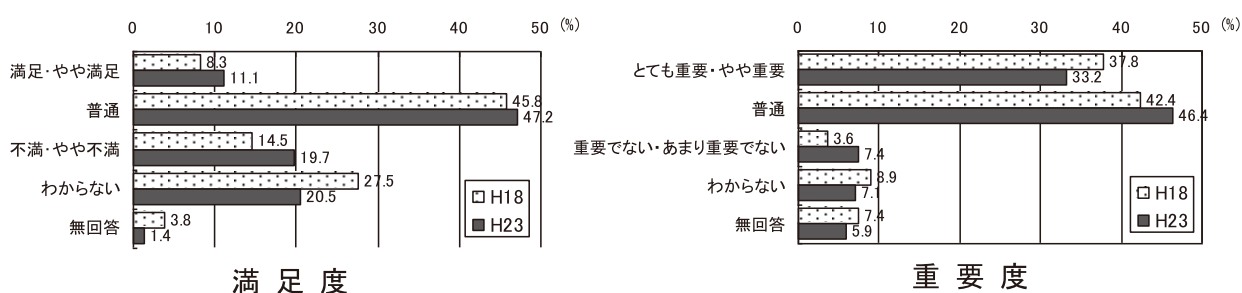
## 2. 市民の芸術・文化活動

### 2-(1) 市民アンケート結果から

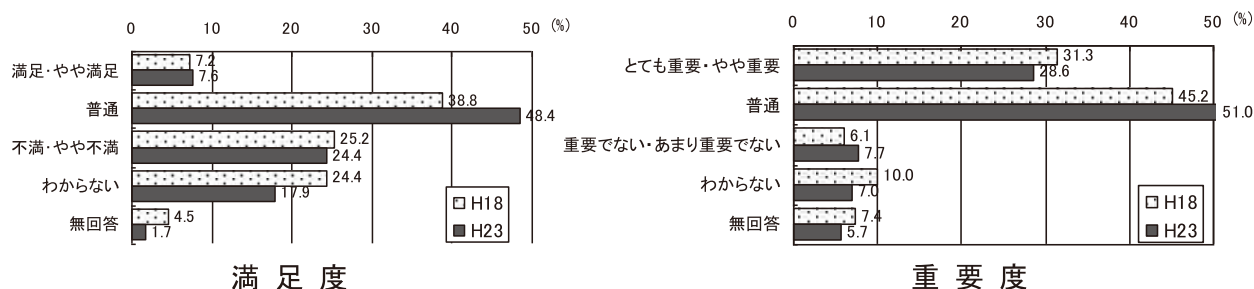
総合計画の評価のために実施されたアンケート（総合計画・行政評価 市民アンケート調査）から、市民の文化活動に関係するアンケート結果（平成18年、平成23年）について抜粋しました。

- 市民が住みやすさ・住みにくさを感じる理由として、「文化・教育施設の充実」との回答は少なく、あまり重要な位置にないようです。
- 「歴史・文化遺産が尊重され生かされているまち」に対する「満足度」は、回答者の半数近くが「普通」としており、「重要度」は「普通」と「とても重要・やや重要」が約80%を占めています。「歴史・文化遺産が尊重され生かされているまち」に対して十分に満足しているとは言えませんが、重要なことと考えているようです。
- 「市民が気軽に芸術文化にふれられるまち」に対する「満足度」と「重要度」は、平成18年と平成23年の結果に大きな違いは見られませんでした。
- 平成23年の新しい質問項目「年1回以上芸術や文化の活動を行いましたか」では「ある」との回答が約20%、「年1回以上芸術や文化を鑑賞しましたか」の回答は「ある」との回答が約50%を占めています。
- 「今どのようなまちづくり活動に参加してますか」との質問において「教育文化活動」との回答は、平成18年と平成23年はいずれも5.5%でした。
- アンケート結果から、市内における芸術文化やその活動が市民にとってより身近なものとなるように、本計画によって文化振興策を推進していく必要があると言えます。

#### □ 「歴史・文化遺産が尊重され生かされているまち」だと思う



#### □ 「市民が気軽に芸術文化にふれられるまち」だと思う



## 2-(2) 現在の主な文化活動

### 1) 生涯学習自主講座

市民が自主的に活動している講座は、14 あります。

- |           |          |
|-----------|----------|
| ● バンド演奏   | ● 気功     |
| ● 生け花     | ● 健康体操   |
| ● アートフラワー | ● 朗読     |
| ● ハーモニカ   | ● 書道     |
| ● 短歌・俳句   | ● 吹奏楽    |
| ● 絵画講座    | ● ダンス    |
| ● カンフー    | ● 手話サークル |

資料：菊川市生涯学習だより（2011.4～2012.3）

### 2) ステップアップ講座

生涯学習の一環として、市教育委員会の主催により 40（平成 22 年度、平成 23 年度）の講座が開催されています。講座は、半年程度の期間です。

- |   |                                 |
|---|---------------------------------|
| ● 日本文化<br>（煎茶、茶道、着付け、陶芸）                      | ● 料理（洋菓子、和洋中華、パン）               |
| ● 語学（会話）<br>（英語、中国語、ポルトガル語）                   | ● 花<br>（フラワーアレンジメント、ガーデニング）     |
| ● 美術<br>（日本画、ちぎり絵、ステンドグラス）                    | ● 体操<br>（エアロビクス、ヨーガ、太極拳、ダンベル体操） |
| ● 音楽（ミュージックベル）                                | ● その他スポーツ<br>（バドミントン）           |
| ● ダンス・踊り<br>（日本舞踊、フラダンス、ベリーダンス、社交ダンス、フォークダンス） | 等                               |

資料：菊川市生涯学習だより（2011.4～2012.3）

### 3) ことぶき講座

おおむね 65 歳以上を対象とした講座で、市教育委員会が主催しています。趣味を広げたり、交流を深め楽しく学習したりする、生き甲斐づくりを目的とし、約半年の間に 5 回程度開催して様々な勉強会を行っています。

- |                 |                 |
|-----------------|-----------------|
| ● 童話「銀河鉄道の夜」の解説 | ● 市内企業視察        |
| ● 健康講座          | ● ゆび編みでマフラー作り 等 |

資料：菊川市教育委員会資料

#### 4) その他

その他市内の代表的な文化活動の事例を紹介します。

##### ■ 静岡県主催

- 通学合宿事業  
通学や夕飯づくり等を通して小学生は社会性や思いやりの心の育成を、大人は青少年健全育成と住民同士の協力体制の構築を目的とし、地元住民の協力を得ながら、地区センター等を活用して地区単位で小学生児童の集団生活を行います。
- 小学生が地区単位で集団宿泊生活をしながら通学もする事業です。
- 本市では、地区センター等を活用し、地元住民の協力を得て児童の社会性や思いやりの心を育て、大人は健全育成を図りながら住民同士の協力体制を築くことを目的としています。

##### ■ 菊川市教育委員会事業

- コミュニティカレッジ（全10回開催）
- 地域文化体験教室（小学生を対象とした地域文化の体験教室）
- 放課後子ども教室推進事業  
子どもが安心して放課後を過ごせるように、地域住民の協力を得ながら、学習やスポーツ、文化活動、地域住民との交流活動などに取り組む事業。現在は、加茂小学校、堀之内小学校、小笠北小学校、小笠東小学校、小笠南小学校の5校で行っています。
- 夏休み親子映画教室

##### ■ 菊川市青年団主催

- お茶摘み体験、菊川夜店市、わくわくウォークラリー大会（菊川市子ども会連合会共催）、奉仕活動（施設の草取りなど）等

##### ■ 菊川市子ども会連合会主催

- ドッジボール大会、わくわくウォークラリー大会（菊川市青年団共催）等

##### ■ 菊川市体育協会・スポーツ少年団本部事業

- 菊川市スポーツ少年団結団式
- 菊川市体育協会総会・表彰式
- 菊川市陸上競技選手権大会
- 静岡県市町対抗駅伝 最終選考会
- 静岡県市町対抗駅伝 結団式・壮行会
- 静岡県市町対抗駅伝競走大会
- 菊川 City マラソン
- 菊川市民健康駅伝競走大会
- 菊川市スポーツ少年団交流会

資料：菊川市教育委員会資料